

学校の教育目標
チャレンジたかまつ ○たくましい子ども ◎かがやく子ども ○学び合う子ども ○伝え合う子ども
学力に関する目指す児童像
確かな学力を身に付けると共に 自ら課題を見付け、解決しようとする子ども
授業改善推進プランの全体像
【東京都の目指す子ども】 自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていく ことができる子ども 【豊島区の目指す子ども】 未来を切り拓く笑顔で元気な”としまっ子” 【学校経営方針】 夢や希望をもち、自分の人生を自ら切り開いていく主体的な子ども 【校内研究 研究主題】 自己の学びを振り返り、自らの学びの舵取りができる児童の育成 【日常的に積み重ねること】 ・教師主導の一斉一律から脱却し、児童が学習を自分事として捉え、選択・決定をする授業計画。 ・主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善の推進。 ・一人一台タブレット端末による個別最適な学び及び協働的な学びの展開。 ・ユニバーサルデザインの視点による「誰一人取り残さない」「どの子ども」分かる授業づくり。 ・指導教諭の模範授業の参観及び校内 OJT による資質能力の向上。

令和8年度 授業改善推進プラン(各教科)

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
言葉への興味・関心を自ら広げ、目的に応じて叙述や表現方法を能動的に思考・判断し、他者との対話を通して自らの考えを深めていくことができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	互いの話に関心をもつこと、自分の思いを言葉で伝えることが難しい。	- グループを配慮し、対話しやすくする。 - 目的に応じて話型を示したり、対話のテーマを自分で選択させたりするなどして意欲を喚起する。
低	- 語彙力の個人差が著しい。 - 伝えたい考えや思いはもっているが、それを文で書き表すことができない。	- 言葉集めやしりとりなどの活動を入れ、楽しみながら語彙を増やせるようにする。また、書く活動において、教科書「ことばのたからばこ」等を活用して語彙を広げる。 - 基本的な文型（主語、述語、修飾語）をいくつか提示し、自身の興味関心に応じて選ばせながら短文をつくる活動を行う。
中	【豊島区学力調査】 書くこと 3年 66.7% 4年 60.6% - 自分の考えを文で書き表すことにつまずきが見られる。 - 友達との話し合い活動に苦手意識をもつ児童が多い。	- はじめ、中、終わりを意識して記述指導をする。 - 思考ツールを用いて情報の整理と構成を可視化できるようにする。 - ペアやトリオでの対話を意図的に取り入れるとともに、安心して活動できるように、話型を示したり、内容に応じて相手を選んだりするなどの配慮をする。
高	【豊島区学力調査】 書くこと 5年 62.1% 6年 44.4% - 根拠を明らかにして説得力ある文章を書くことにつまずきが見られる。 - 説明文や物語文の内容の理解や要旨を捉えることに課題がある。	- 複数の文章や情報を比較して、自らの考えを形成し、対話を通して考えを深める活動を設定する。 - 初発の感想から自ら問いをもち、解決の見通しをもって主体的に読みを深めていくようにする。 - 登場人物の心情や筆者の主張などについて友達との対話を通して理解を深めていくようにする。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
社会的事象に自ら問題意識をもち、多様な資料の中から必要な情報を能動的に選択・分析し、地域や社会の未来を見据えて自分でできることを主体的に考えようとする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・調査結果や各種資料から、どんな社会的な事象を読み取れば良いのか、判断できない児童が見受けられる。 ・教師から指示されたことを調べることが目的になってしまっている様子が見受けられる。	・提示する資料を精選、工夫し児童が学習課題を自分事として捉え、主体的に学習に臨めるようにする。 ・総合的な学習の時間などと教科横断的なカリキュラムマネジメントを行い、探求的かつ問題解決的な学習を展開していく。
高	【豊島区学力調査】 活用領域 5年 68.5% 6年 67.8% ・複数の統計データや情報を関連付けて社会的事象の理由を考察することにつまずきが見られる。	・資料相互の関係性に着目させるよう発問を精選し、思考を促す。 ・自分の考えを統計や資料などの根拠を明確に示しながら隣同士や小グループで話し合わせる。 ・調べる内容、手段等を自ら選択し、主体的によりよい解決を図ることができるようにする。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
既習事項を基に自ら課題や問いを見出し、主体的によりよい解決方法を粘り強く選び取り、自らの考えを深めていくことができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・幼児期の経験の差にもよるが、問題場面を想起する力が弱い。	・具体物を用いた活動を通して数量などへの感覚を豊かにし、自ら主体的に関わることで、算数の学習を始めるに当たっての素地を養う。
低	・文章問題を理解し、立式することや式の意味を説明することが苦手な児童が多い。	・ブロックでの操作、○を使って問題の場面を図に表す活動を行う。 ・互いに説明し合う活動や、式を読んで図や言葉に表す活動を取り入れる。
中	【豊島区学力調査】 記述・文章問題 3年 28.1% 4年 69.0% ・計算の過程や立式に至る筋道を言葉や数式を用いて説明することにつまずきが見られる。	・問題場面を数直線やテープ図に置き換えるなど、ツールの活用を促すとともに ICT 端末を活用して、思考を可視化したり、多様な考え方にふれて、よりよい解法にふれられるようにする。

	文章から必要なデータを取り出し、それらを関連付けて解決することにつまずきが見られる。	
高	【豊島区学力調査】 活用領域 5年 64.8% 6年 58.7% - 計算手順が複雑になる文章題や単位量当たりの大きさなどの活用につまずきが見られる。 - 既習事項を自在に組み合わせて問題を解決していくことにつまずきが見られる。	- 少人数算数での指導を行い、習熟の段階に応じた学習問題を設定し、すべての児童が粘り強く、既習問題を想起しながら問題の解決に従事できるようにする。 - 自分に合った問題や活動の仕方を選択・決定して主体的に課題解決に従事できるようにする。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
自然現象への疑問から自ら予想・仮説を立て、目的に合った観察・実験方法を自ら計画・工夫して追究し、結果から新たな問いを見いだして粘り強く探究し続けることができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	【豊島区学力調査】 知識・技能 4年 68.1% - 観察や実験で得られた知識や用語を正確に記憶し、活用することにつまずきが見られる。 - 実験するのは好きだが、考察を苦手としている児童が多く見受けられる。	- 学習のふりかえりの際に、体験したことと正確な用語をきちんと結び付けられるように支援をしていく。 - 活動やそれに対する「問題作り・予想・仮説の発想・実験方法の計画・実験・結果の整理・考察・結論」などの位置付けを理解させ、児童が主体的に課題を追究していけるように、ワークシート等を工夫をする。また、考察の型として「何を行ったか」「実験結果」「予想の正否」「結果から言える問題に対する答え（結論）」を表現させるようにする。
高	【豊島区学力調査】 活用領域 5年 50.6% 6年 46.6% 観察、実験の条件を変えた場合の予測や結果のグラフや表から法則性や妥当性を導くのににつまずきが見られる。	- 観察や実験で得られたデータをグラフや表で表現したり、それらを分析してペアや小集団で考察を行う活動を行うようにする。 - 自ら観察や実験の方法を創造し、試行錯誤を重ねて粘り強く課題解決を図ることができるようにする。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
身近な生活環境や人・自然に自ら進んで関わり、「やってみたい」「試してみたい」という思いを基に、試行錯誤しながら自らの生活を豊かに創り出そうとする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・登下校時の支度などで、自分で行動できない児童がいる。	・マーク、アイコン、写真、キーワードを活用した掲示で自ら考えることができるようにする。
低	・栽培活動や生き物の飼育経験が少なく気付きの数にも個人差がある。 ・家族や友達との限定的な関わりが多く、地域の人々の存在への意識が低い。	・一人一鉢の栽培活動や、生き物の観察、飼育する等、主体的な活動を十分に設定することで植物や生き物を身近に感じ、気付きが増やせるようにする。 ・地域に出向いて地域の方や公共施設、商店の人と関わる活動を取り入れる。また、地域の人材を活用した学習計画を子どもたちと一緒に設定する。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽のよさや楽しさを進んで味わい、曲想や思いにふさわしい表現方法（強弱・音色等）を自ら創意工夫し、仲間と協働しながら、主体的に表現を高めようとする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・友達の思いやよさに気付くことができる児童が少ない。また、友達のよいところを表現に生かすことができていない。	・ペアやグループ活動を通して、互いのよさを認めて共有する場を多く設定し、友達のよさを取り入れる方法を提示して豊かな表現につなげていく。
中	・読譜や記号の理解に時間がかかる児童に対して一斉指導の中でなかなか理解の定着が難しい。 ・自分や友達の思いやよさを伝え合うことはできるが、友達の思いを受け入れて表現に生かすことは十分できていない。	・電子黒板で拡大楽譜を投影して色分けしながら説明したりヒントを出したりしながら個別指導を行い、一人一人の理解の定着を図る。 ・ペアやグループ活動を通して、互いのよさを認めて共有する場を多く設定し、友達のよさを取り入れた豊かな表現につなげていく。
高	・思春期に入り、「恥ずかしい」「目立ちたくない」という感情が強くなり、活発に表現することに消極的になる児童がいる。 ・自分や友達の思いやよさを伝え合ったり認め合ったりすることはできるが、友達の思いを受け入れ、互いに役割意識をもって表現に生かすことが十分できていない。	・児童が興味を持てるような楽曲選択を行い、合奏では能力差に応じた役割分担を行うことで表現することの喜びを体感し、主体的に取り組めるようにするとともに自己肯定感を高めていく。 ・役割を明確にしたペアやグループ活動を通して、感動の表現を共有する場を多く設定し、互いによさを認め合いながら豊かな表現につなげていく。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
自らの感性や発想を大切にして創造的に活動し、材料や用具の特性を自ら試行錯誤しながら、自分らしい納得のいく表現を粘り強く追究する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・材料や道具、色や形に主体的に関わったり試したりする姿が見られるが、自分の発想や表現に自信をもてずにいる児童がいる。	・手先だけでなく手や体全体を働かせてものに関わる経験を積ませる。 ・活動しながらいつでも友達の活動の様子が見られるようにすることで、友達のよさに気付かせ、自分の造形活動に生かしていけるようにする。
中	・意欲的に活動をしているが、素材や技法の特徴を生かした造形活動をすることが難しい児童がいる。 ・技法や用具の習得に課題のある児童は活動が深まるまで時間がかかる。	・多様な技法や素材との関わりを経験することで、製作の際の選択肢を増やし、自分に合った表現を見付けられるようにする。 ・ユニバーサルデザインを意識して、用具の使い方や技法が理解しやすい提示方法や掲示をする。
高	・技術面で自信のある児童と苦手意識のある児童の差が大きい。	・完成作品だけでなく、製作過程やその都度の思いも視野に入れて途中鑑賞やまとめをし、自分に合った目標設定ができるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
自他の生活課題に自ら気付き、「自分たちの力でよりよくしたい」という課題意識をもって実践方法を選択・計画し、家庭や地域生活へ進んで還元・応用することができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	・衣食住に関する学習内容に、興味・関心が高い。 ・家庭での実践や手先の器用さ等、個人差がある中で、それぞれの技量に応じた完成度を求めて課題を設定している。	・実践的・体験的な活動を通し、日常生活の自他の生活課題について主体性をもって考えさせ、よりよい生活の在り方について他者と考えを交流したり、計画を立てて実践したりできるようにする。 ・手順カード、写真や映像資料をタブレット等で工程を段階的に提示し、全ての児童がわかる、できるように配慮する。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
運動の楽しさや自己の健康・安全・運動の課題に自ら向き合い、目標達成に向けて最適な練習方法や作戦を主体的に選択・実践し、仲間と励まし合いながら粘り強く挑戦し続けることができる		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・友達と共に運動したり、考えたことを伝えたりすることを苦手とする児童が多い。	・友達と関わりながら運動できる場の設定を行う。 ・ワークシートを活用し、考えたことを伝えたり思ったことをふり返ったりする時間を設ける。
中	・技の出来栄や技能に目がいき、運動自体の楽しさを味わったり、運動の仕方を工夫したりすることが難しい。 ・積極的に運動を楽しむ児童と、運動することに苦手意識のある児童の二極化が進んでいる	・技の出来不出来や技能だけでなく練習の過程や運動自体の楽しさに気付けるような単元構成、学習場面の設定をする。 ・全員が同じめあて、課題で行うのではなく、それぞれの段階の応じた目標をもって運動できるような授業づくりを行う。
高	・互いの動きを見てアドバイスをするなど、協働的な学び方に消極的な児童が多く見受けられる。 ・日頃から運動に親しみ、積極的に活動する児童と、意欲が低い児童の差が大きく、授業に対する姿勢にばらつきがある。	・互いの動きを見る際の視点や学習の到達度をループリックで示すことで、互いに効果的なアドバイスができるようにする。 ・苦手意識のある児童でも、自分の願いや目標をもって運動できるようにルールや教具を工夫する。 ・個々のめあてを大切にし、一人一人の達成度を評価する。

10 外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力		
外国語でコミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、相手意識をもって、積極的に自分の気持ちや考えを伝え合おうとしたり表現しようとしたりする素地を養う。（低・中学年の言語活動：聞くこと、話すこと【やり取り】 高学年の言語活動：聞くこと、読むこと、話すこと【やり取り・発表】、書くこと）		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・歌やゲームはほとんどの児童が楽しめているが、コミュニケーションの活動では、参加が難しい児童がいる。	・歌やゲームなどを通して、楽しみながら十分に英語に慣れ親しめるようにする。コミュニケーション活動を行う場合は、語彙や表現を精選し、児童の実態に合うように内容を設定する。
中	・チャンツやゲームに楽しんで取り組んでいる。しかし、言語活動や表現することへの意欲には個人差があり、苦手意識がある児童もいる。	・絵カード等を活用し、クイズやゲーム形式で繰り返し取り組ませ、基本的な表現に触れる機会を多くもつ。児童が表現したいと思うような必然性のある言語活動になるよう、単元構成や展開を工夫する。

高	・聞くことはある程度はできている。一方で、単語や英語表現を書いたり、習った表現を使ったりして表現することには課題が多い。	・英語を使ってコミュニケーションをとるときに、黒板に英語で文章表現を書いたり、繰り返し練習したりして関連付けるようにする。また、アルファベットを書く練習も必要に応じて取り組む。
---	--	--

Ⅰ Ⅰ 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
道徳的価値を自分ごととして捉え、多面的な視点から物事を深く見つめ直し、自らの生き方や判断の根拠を主体的に問い直しながら、よりよい行動を選択・実行しようとする。		
学年	現在の状況	改善のための取組（UD）
低	・道徳的価値と自分の生活経験が結びついていないため、自分の体験を振り返ったり、考えをもったりすることができない児童がいる。	・自分たちの生活の中から具体的場面を例に挙げ、自分の経験を想起できるようにする。また、自分の気持ちを言語化することに慣れていくために、役割演技や動作化を取り入れていく。
中	・道徳的価値については理解している児童が多いが、自己を見つめる発問をすると、自分の経験と結びつけて考えることが難しい。	・展開後段に時間をかけ、自分の経験や道徳的価値に向き合う時間を多くとる。また、自分の考えを視覚化できる思考ツールの活用や、様々な考えに触れることのできる交流の場の工夫などを取り入れていく。
高	・道徳的価値については理解できているが、その理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えること、自己の生き方に生かそうとするところに児童によってのばらつきがある。	・毎時間の授業に中で、ねらいとする道徳的価値について自分の考え方やその変容を振り返らせる時間をとる。そうすることで、教材文の中だけでなく、自己の生き方について考えることができ、道徳的実践力に結び付けられるようにする。

Ⅰ Ⅱ 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
日常生活や社会に目を向け、自分事として捉え、自ら課題を設定し、よりよく課題を解決していく資質・能力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組（UD）
中	・与えられた課題に対し、情報を集めたり、表現したりすることはできるが、自ら課題を設定することは難しい。	・1つの課題を解決する中で、新たな課題を設定することができるよう、前時までの学習での気づきや疑問を大切に、児童が自ら課題を設定できるようにする。 ・解決することができる課題になるように、学習課題の型を児童に示す。 ・総合の学習の流れを明確化し、児童が自ら探求できるような学習形態を整える。

高	・身の回りの諸問題から自分達で解決したいと思える課題を自分達で設定することに難しさを感じている。	・総合的な学習の時間の進め方を児童と確認し、課題の設定の仕方を全体で共有する。課題は、適宜変更していいということも伝え、教師主導ではなく、児童が自ら課題を設定できるようにする。
---	--	--

13 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
集団や自分たちの生活課題を主体的に発見・共有し、多様な意見を尊重しながら合意形成を図り、自ら進んで学級・学校生活をよりよく変革・創造しようとする。		
学年	現在の状況	改善のための取組（UD）
低	・今の自分を振り返って課題を見付け、具体的にめあてをたてるのが難しい。	・身近なことやアンケートの結果から導入を行い、自分事して考えられるようにする。 ・「つかむ⇒さぐる⇒見付ける⇒決める」の学習過程を繰り返すことで、課題を見付け、めあてをたてられるようにする。
中	・集団や自己の生活を振り返って課題を見つけること、もしくは課題の解決を図ることが難しい。また、それに向けた活動に結び付かない。	・定期的に学級活動等で係・当番や自己・集団の振り返りをしたり、こちらから議題提案をして学級会を開いたりすることで、自分の周りにある課題に目を向けることができるようにする。 ・定期的に学級目標に立ち返り、目標を達成できたかという視点で学級の状況を振り返り、議題をみつけれられるようにする。 ・学級会の議題に対して、何が問題なのかを明確にするような話し合いの時間を設定し、課題の解決策を探るようにする。
高	・自分の将来に目を向けているが、学校での活動とのつながりを意識できていない。 ・自分の働きが学校全体や地域に貢献できていると意識して活動ができていない。	・自身の将来とのつながりを意識ながら、キャリアパスポートの振り返りを行うよう働きかける。 ・委員会活動や、地域と関わることについて、責任をもって主体的に活動することができるよう、児童の考えを尊重し、声掛けを行っていく。